

2010年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

NPO法人 悟空研究所
「子ども達が創る「お酒は大人になってから」をテーマとする民話劇」

この活動は、未成年者飲酒予防のメッセージをよりよくアッピールする為に、予防対象者である子ども達自身によって、趣旨に沿った「民話劇」を創作上演すると云うものであり、活動の主旨を見失うことなく成果をあげる事を主眼として、次の様な手順で活動を実施した。

【活動内容と手順】

1. 参加した子ども達に対してお酒と身体の関係について理解させる。
2. お酒に関する民話を探してテーマに沿った「民話劇」をみんなで創る。
3. 民話劇で言いたい事を話し合い、わかりやすい内容や台詞を考える。
4. 民話劇の稽古と、小道具や大道具などを作る。
5. 活動の成果として民話劇発表会を開催する。

まず、お酒と身体の関係や未成年者の飲酒が子ども達の身体や脳に与える影響について御社の資料や、他の関連する資料などを収集して子ども達の理解レベルに合うようにアレンジした教材を制作した。

そして、子ども達に理解できるように、専門の医師による講座を設けて、具体的な事例などを紹介しながら、なぜ子供はお酒を飲んではいけないかを理解させるようにした。

次に、民話劇づくりのモチーフとする為に、日本各地の民話の中からお酒に関するものをいくつか探し出して話し合った。

民話に中にはお酒に関するものはいろいろあるが、飲酒を戒めたものはさほど無く、飲酒により失敗した話しや、お酒と人情話のようなものが多く見受けられた。

その中で、横浜の戸塚区に伝わる「樽見橋」が単純でわかり易く、養老の滝伝説にも似ていて、子ども達の共感を呼んだ。

そこで、この話をモチーフとして子ども達との劇づくりを始めることにした。

劇づくりでは、第1段階で子ども達と話し合ったことや、其々の家庭でのお母さんお父さん更に祖父母たちの反応や考えを踏まえた、子ども達の意見を基に構成していった。

ここでは、出来るだけ子ども達の自由な発想や意見などに耳を傾けた。

未成年者飲酒予防の趣旨やその必要性、社会性等を子ども達にどの様に教えるか、そしていかに、子ども達自身のものとしてゆくかを前提として活動してゆくことにするように心がけた。

その為に、子どもと飲酒予防の問題の勉強と、子ども達が興味を抱かせる民話の勉強の、二つの側面から子ども達の意識レベルを高める為の、話し合いを繰り返して台本作りの基とした。

当該活動の成果は、民話劇の創作過程で子ども達と保護者家族などが、お酒について話しあう機会を創ったこと。小中学生の子ども達が演じた民話劇による、未成年者飲酒予防のメッセージは保護者や友達そして、学校の先生などを通して流布して行く効果が有るのではないかと思われる。

以上